

# 羣書類從

三百十八上

和書門類			
九	五	九	五
二	〇	四	七
六	七	〇	冊

內閣文庫			
九	五	九	五
三	四	一	九
二	〇	冊	架

內閣文庫			
番號	和	9595	
冊數	670 (398)		
函號	214	39	

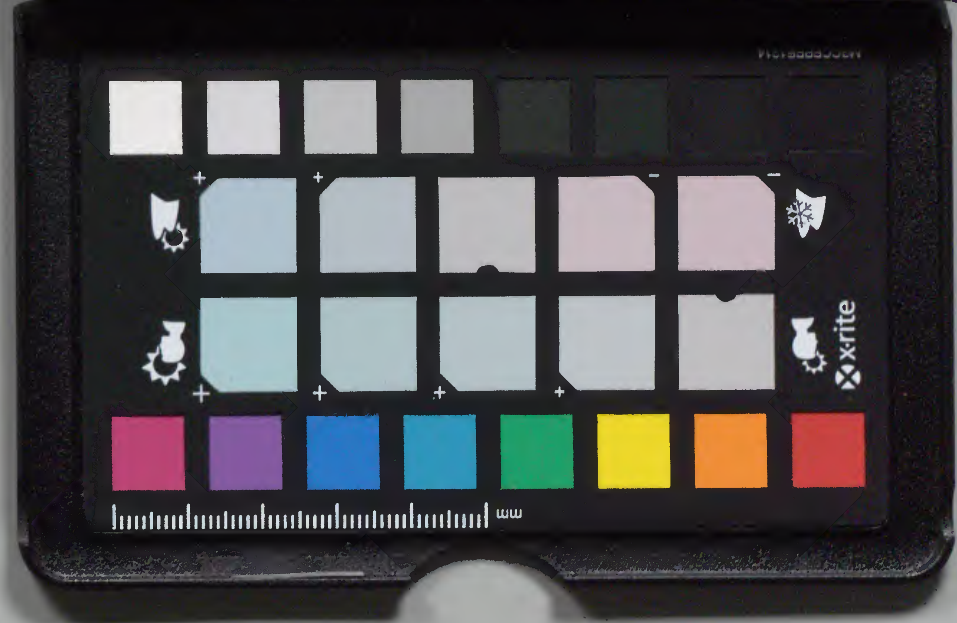


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak







群書類聚卷之百十八上

檢校保乙以集

北極星之

長慶院法皇御抄

保成初任名所系圖書

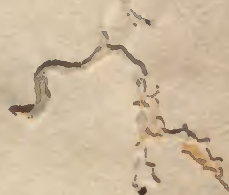
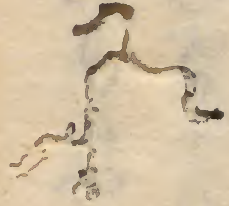
傳

長慶院法皇御抄

長慶院

長慶院法皇御抄

長慶院法皇御抄





群書類従卷第三百十八上

檢校保己集

物部部十二

仙源抄

長慶院法皇御抄

源氏物語系系圖書

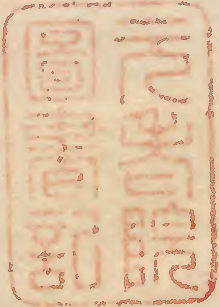
倭

いふも山も海もまじりて長河合流の流

いこも空也

いふもいふもいふもいふもハ柳替に

いふもいふも 空強早速トモスニヤカナル心



群書類従

群書類従



いぢめ 市女商人望キテ抱ヲウル粥高女也  
 いぢあゝら ぬ十日也子生テぬ十日ヲ祝百  
 日ヲハモカト云柏木ニモ煮煮イカノ祝ト云  
 いうめ 魁也 文撰 又ハ畏魁私威極  
 いうたうめ 倭刀女也中媒也夕ウメトハ府  
 宮寮部女祝也ヲマツリニケル志也イナリノ  
 返坂ハカレカニケルトナニ  
 いぬさ 犬公也昔上ワラハヲハ何云云云り世  
 依ニア子キヲチキト云同心右ノ犬公カ飼之雀ノ  
 子死アカリニヤウニト思ヒシ

いかに 幸カラキニ怒怒ノ心ニ糸濟息不付給  
 付愛中ニタケクイカキヒタフルト云 忍奈  
 イカクニキナト世依ニ云言死 以ニ  
 いさば 労也也イタハリカニツクニモ用心  
 ヲイタツカニウスルトモ云リ云云ハ  
 いさく 板ヲナラヘテスチヲニテツリ付  
 物  
 いうや 傷也労也  
 いさ 甚 傷 痛  
 いさめ 諫 禁 制 ス



いんご 柘

いりあや入綾舞ノ手ニ舞ニアヤトル手トテ有  
いと志くイソカハニキ也又カルラカナル心近  
天サ云リ

いけへの麻冬ノ麻ニ字ノ麻ノ亦ニ委アリ  
手折ノ免尾ニ成タルカニ事五字ハ餘アツ  
キト也

いけの川 本は川に元ハいここの川に云  
いさひ 辞に  
いらんご 寒神に多ハ夕ハツ心

いぬき 未審ふ審ヲホツカナシノ心

いきたら 不生

いへうま 家烟也

いまめ 今也

いぬらう 主人女

いらり 求子神系ニ名

いんけら 中

いじり 戒に 私物ヲ禁スルハイム

いさず 玉生靈に息水

いけり 教に 教守ノ心

卷三十一

三十一



いほれおらう 五濁

いこやく 忌 称羨ノ詞ニモ云

いひそく 云初シテ又ト云云云殺シ又ハ

リト云心

いこら 居立 居起 東屋ヒタキノ詞いこら

ゆんこハマカケサニタル心

いづから 優

いづさ 冊カニツク心竊古今ウツクト有

いづそく 優息又ハ優俗有俗ハ可優

いませうや ヲハシマス心

いとま 久あくツカサ位イキハヤキ心

いとあき 量暇 云 春あけぬ末の

いとけあき 幼稚 云 日本紀 可優各別

いふりあき 量云 中詞もあ及ノ心

いでたら 世に出立マシル心若 念ニゆる入道

い云ニ大 後ニテ出立モスヘカリケル

いそいおすノ心

いおやう色 今振 余種を 何もあし紅ノウスキ

いえあすあ 二ハ 伴 二ハ 女と云心也社

い内親王 後朱雀院 紅梅ノ十二ノ奉リ内ノ



一 女系テウツク之人と根名や  
こしやケリ

いふまゝに巻息巻いこく目お心イカ  
ル白く又ムセカヘル心

いもい 齋精進社へく束ねふにくあけ  
てこる

いりこちてうにハちれはくそく 巻越調ハ七  
月ニトルに揆ノ弦ハ調子リツカサトル宮ノ

弦ヲ云はる弦初ノヲ云ハるハ弦一越調第ハ  
ハ弦ニテ發合子スサニモアルハナハナハナ

いまゝめ 敬告命 誠告ツケシラスルこめ石ニ  
イマニメム日ヲスラスレ由ツケ付入

い 道ノ夢ノ若ク云く可依也

い そち 若菜トイソちノハス強ち名不用オチ  
ノちナリ源氏ノ田十ノ若ニ田十ちト云同心

い ひさ 野睡權卷 柗 園女み宮ヲ云イヒキト  
カキ、モシラスト云ト

い ていから 柗 横笛ニ源氏若<sup>若菜</sup>見物テ哥ニ  
コハ捨力タキ物ニソ有ケル私弓ニテ矢ヲ村

一 放心丸



出居柳卷に息不ノ詞ニイテイ  
 カレ更ニツマシト有出て為務心  
 此とに人の鬼お 若葉中ニ箇ノ文ノ不  
 小侍後詞サハカリノイニヲタニ心ノ鬼ニト  
 有忌字死人ノ思ハシイサイニハカル心死  
 いよす 柏本ニイヨスカケワタニテトアリ  
 与スタレナリ  
 いひくささまり 早蕨ニ申及自宮へ迎ラレ  
 結不ニ葉奇ハホナラ子共逢ニ物ヲト云ク  
 タサマホシト云詞ケツ心言有蘭

紐常夏迎さ川ノイニフ之西川ノ能  
 いて人ハこのこそ月葉のうへハあといひて  
 杖のさふとあふささといてやんハたぬといひ  
 いさけささ衣武志也  
 いさたー 忠有也  
 わかえうら志く 居並席スルニ若スル心死  
 むんみささ 掩顔古詞ノ字ヲフタキテト句ノ  
 末字ヲ何文字ト推シテ勝有ニスル事



いやくく 茶ウヤク<sup>ト</sup>あこ  
あんじとも 院司<sup>ト</sup> 標<sup>ト</sup> 判友<sup>ト</sup> 徳<sup>ト</sup> 在<sup>ト</sup> 別<sup>ト</sup> 納  
おし披お進納おお表武名<sup>ト</sup> 所以<sup>ト</sup> 随<sup>ト</sup> 身<sup>ト</sup> 納

りあり 之論<sup>ト</sup> 柏本<sup>ト</sup> 米<sup>ト</sup> 夕<sup>ト</sup> 膏<sup>ト</sup> ニカタル 詞<sup>ト</sup> 傳<sup>ト</sup> 兮  
ハハ口<sup>ト</sup> 十<sup>ト</sup> 口<sup>ト</sup> 有

六十卷 天台宗<sup>ト</sup> 本書<sup>ト</sup> 玄義<sup>ト</sup> 文<sup>ト</sup> 句<sup>ト</sup> 止<sup>ト</sup> 観<sup>ト</sup> 各<sup>ト</sup> 十<sup>ト</sup> 卷  
天台大師<sup>ト</sup> 以<sup>ト</sup> 作<sup>ト</sup> 尸<sup>ト</sup> 籤<sup>ト</sup> 疏<sup>ト</sup> 記<sup>ト</sup> 弘<sup>ト</sup> 安<sup>ト</sup> 各<sup>ト</sup> 十<sup>ト</sup> 卷<sup>ト</sup> 妙<sup>ト</sup> 樂<sup>ト</sup> 大<sup>ト</sup> 師  
一<sup>ト</sup> 度<sup>ト</sup> 六十<sup>ト</sup> 卷<sup>ト</sup> 上<sup>ト</sup> 云<sup>ト</sup> 文<sup>ト</sup> 小<sup>ト</sup> 山<sup>ト</sup> 僧<sup>ト</sup> 納<sup>ト</sup> 亦<sup>ト</sup> ニ<sup>ト</sup> テ<sup>ト</sup> ノ<sup>ト</sup> 事<sup>ト</sup>  
らうせうらう 嘯<sup>ト</sup> 鳴<sup>ト</sup> 心<sup>ト</sup> ろ<sup>ト</sup> め<sup>ト</sup> ら<sup>ト</sup> う<sup>ト</sup> せ<sup>ト</sup> う<sup>ト</sup> う<sup>ト</sup> ころ<sup>ト</sup> う

六十僧のあせ 大般若<sup>ト</sup> 卷<sup>ト</sup> 又<sup>ト</sup> 七<sup>ト</sup> 僧<sup>ト</sup> も<sup>ト</sup> 六十<sup>ト</sup> 僧

はつ<sup>ト</sup> ころ<sup>ト</sup> して<sup>ト</sup> 人<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> ハ<sup>ト</sup> カ<sup>ト</sup> リ<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> テ<sup>ト</sup> 詐<sup>ト</sup> ア<sup>ト</sup> サ<sup>ト</sup> ム<sup>ト</sup> タ<sup>ト</sup> 心<sup>ト</sup> カ  
は<sup>ト</sup> 名<sup>ト</sup> 系<sup>ト</sup> 風<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> ソ<sup>ト</sup> ヘ<sup>ト</sup> タ<sup>ト</sup> リ<sup>ト</sup> 將<sup>ト</sup> 士<sup>ト</sup> 之<sup>ト</sup> 教<sup>ト</sup> の<sup>ト</sup> う<sup>ト</sup> 案<sup>ト</sup> ニ  
は<sup>ト</sup> 内<sup>ト</sup> 的<sup>ト</sup> 返<sup>ト</sup> 奇<sup>ト</sup> ニ<sup>ト</sup> カ<sup>ト</sup> セ<sup>ト</sup> ナ<sup>ト</sup> ラ<sup>ト</sup> ヘ<sup>ト</sup> テ<sup>ト</sup> ハ<sup>ト</sup> ト<sup>ト</sup> キ<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> エ<sup>ト</sup> タ

り<sup>ト</sup> 折<sup>ト</sup> 桂<sup>ト</sup> 系<sup>ト</sup> 風<sup>ト</sup> ニ<sup>ト</sup> 將<sup>ト</sup> 士<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> ソ<sup>ト</sup> ヘ<sup>ト</sup> タ<sup>ト</sup> リ<sup>ト</sup> 又<sup>ト</sup> 太<sup>ト</sup> カ<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> 云<sup>ト</sup> 早  
藤<sup>ト</sup> ニ<sup>ト</sup> 中<sup>ト</sup> 忍<sup>ト</sup> 白<sup>ト</sup> 宮<sup>ト</sup> へ<sup>ト</sup> 渡<sup>ト</sup> 給<sup>ト</sup> 亦<sup>ト</sup> ニ<sup>ト</sup> 兼<sup>ト</sup> ヲ<sup>ト</sup> リ<sup>ト</sup> 以<sup>ト</sup> 前<sup>ト</sup> へ<sup>ト</sup> ハ  
カ<sup>ト</sup> セ<sup>ト</sup> ナ<sup>ト</sup> ト<sup>ト</sup> 奉<sup>ト</sup> 給<sup>ト</sup> 上<sup>ト</sup> 有<sup>ト</sup> 可<sup>ト</sup> 勘



はれらるまよこ 脛眉こを際ニ多末ツムニモ脛ル  
 也(其外ハ晴) 柏木ニ付僧又夕露ニ  
 ありハツウトモ 心ハツシテハト云心  
 はつとん 春梅ニ寄夏ハ橋ニ時多但是ニ不  
 はなをろめりしめニ脛ニタル心鳴呼ノ聲多  
 はあろせろたくこ ヒタルニタクニカ花ヲ  
 ラセタルト有 放書文字上ロイ共云(重)文字一

書ヲ云々本放書ヲモ云

はらりる兄弟 同腹 春樂踏歌ノ曲  
 はらりるかこ 脛クロキシマハ、ナント  
 はんたん 傍側飽足可依  
 はんさの帯 班屏帯に位五位人者用之  
 披馬屏帯  
 はらりる 育  
 はらりる 演説  
 はらりる



はあれ 流離し放埒私ヲチフル心身ハ捨ツ  
心ヲ夕ニモハクヲサシ

はいあひくしき 仄維合標板ノ奇ニカクハカ

リ 仄合くしき 志ノト多ク言海ニ椿ノアクノ

ハハと柏木ノいしき 深きふけ志ノ意んありハ

仄心ニて 志ノ意んありハ

はうしき 柏子 志ノ意んありハ

はうしき 柏子 志ノ意んありハ

はる秋のゆき 物観し礼記ニ春見云

積目ん云観

はう 春宮坊相違

はへあふ 有氣有光 之見ハ八十ニ

はすのこ 蓮子藕実子 志ノ意んありハ

ハヤウ人物運ふハ 如ナル志 志ノ意んありハ

はこ多 万果多 春多 容多 若菜ニ深ニ

はくしき じら果多 志ノ意んありハ

はふせ 若 羽 昔乙女ニ 志ノ意んありハ

ハ 時世ソシリモヤト 羽 昔 志ノ意んありハ

ハ 志ノ意んありハ

茶ニ 志ノ意んありハ











いこやう 濃艶 梅の枝

にらめろ 服衣の法衣メカニキヲ云

にけあろすすの 念似家 不念人間 是は以て

二方也ニツカハシキ心

にるく 念ニ才一ト云心念也

にかり 持はさうけん 美菜ト兼テイハ

ト云ル心也 所説入候 念天の時

にけつ いうろ 似守付玉かけのこめくり

の おこる 念ニ似おろ 念ト云心

暮 念 念

ほをゆくじ 方曲 中川ノ方遠始<sup>權</sup> 念ニ權ヲ

給時ノ哥ヲホウユカヲテ 語ヲ深ク 給事

ほらく 強心 念

ほをいつめく 給 給攬

ほこけたあやうたい 頂裁

ほんさい 本妻本ヲ夕帯一糸宮ニ通給

二僧教ノ言

ほろか 朗アキラカノ心

ほえく 法事又法呼

ほそかろ 末通女ノキルカリキヌこハタメ



人物し水源ニ云末色女若用之然其可然人  
若ハ后を逢女御ヲトナシキモ着用ノ組ニテ紐

ヲ付ナリ

ほくしり 模視メツラシキ

ほくしり 反古ホシクトヨムヘシ

ほうりう 法成寺法性直宗法号

ほそ殿 弘キ殿秘説

ほうけはく 法守付 吉祥天女仏法めぐり 医

昨毒ナト、テモノキライセトナシ

ほのめし 郎方髷ホノカナリ

へいし かわらせ 瓶子ニヤク死

へん 海橋娘 冥才ニ基ホシツキ大志中

悉ノ事

へいし 倍従 舞

せ

せらめす 轟動同

せらめし

せらめし マツリユト同テ

せらめし 遠来ニセリ川大将 徳明ニ大志ト

有



こよじ 卿言

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

こけりかきこき動してははれぬ

ほむくこき動してははれぬ

ほむくこき動してははれぬ

ほむくこき動してははれぬ

トホトクシカルメヲモ見式

法界ニ味普賢大士大唐西院和尚礼辨以白

南堂法界ニミト井トアリ

ほむくもホロメキタル心名香ニホロメタル

トハ密ハ生類ノ趣カハキタル心

ほむくもホロメキタル心名香ニホロメタル

トハ密ハ生類ノ趣カハキタル心



魚 此へきと定年ニハけりナと古今ニ此へト  
 引云ル大嘗會ノ義ニ何も留る心し  
 魚らあり 別納納ホナトノ居ホク夕顔ニハ  
 引ナナウノ方ニフサウシナトニテニハカシメ  
 ルト又同ホナカラ各別成心  
 へんくも昔アリケニヘンケニ輪明神物語  
 ニ系ヲ付引ホヲ知ト云事有  
 へんもハ多しぬ 舟厄蒸ニ楽屋ニ故ホカノ  
 引メイヘンモハナレ又申ライト云邊於若又孫ヲ  
 引云於ホニテ可勤ニハカシメテニハカシメ

讀人ノ心セケタル事ハアラスト有  
 引けもツカサ下ケテ解當ニトケタリニ読人  
 引トナカ  
 引読は子ナ列ニ使老詣童隨身ナ列系人ナ  
 引人クニテ社頭ニテ求子ナト葬事有  
 引引云ニ毛食トシキト可讀ツニ飯ト云ト福  
 引ニタフ 郷食ニ  
 引心セテ出外ホ常夏ニ始ホスユニトイテ  
 引外出心又抱ヲホホス事  
 引うゆニ由筆ノ左手ニ有七為ノ強ニ疑ウヲホ







ひびきまのりて迎勝たぬ

らすのさる 帳簿ニスノカサリト云リ竹ヲ簾

人如編海綾ヲ裏ニ付テ後出籍ニ用ヒ

りやかおあふに下 藝ノウモリタルト云心

又ガリタル心

らり分ふの玉カツスニ筑は意ニテハ口惜カラヌ又

京玉リキリホイ来キリホ之来トナリニマナル心

らやうこふりける女 塔ト云タル室ノ居ホニア

ララス堂ノ字用也叙子の事也カウマノ中納

言物信ニホ下ノ惟ヲキヌニヌイテ制タル女

らやうあううし 長来送使齋宮司人天曆

今時系代人始ト今日ヲ初至テ今初来ハ神

シルラン Omura 此は

らりのへう 大の上春ニ希友致仕大は年充テ

友ヲ返スナリ

らうしす 相親習た手ヒワノ相ハ口口口

一柱コトニノセテ各口く十六し一乙行上一柱

口下七八二柱 凡十比ト之柱 突丸トツ乞天や 口柱

ら志す 地爰美ナノ上ニイニナトハ夕テヌ以干

シキ口十枚ト有唐庭ニ大文高繁へリ付











おひひの物お打提に

おはせり 大趣

をちの物ヨリヲキト六アナタナリ

をこの物ヲロカナルを

をすのうへさのヲツキ心遊付ヲイスカルトモ

おいはく売し

をいすいぬ進ヲイツ、キタル心遊さタル心

おいはれはまゝして急いと云心お通し

おえさうす 才ハシマス也

にわれあさう 溺おられ同事し

おいささこにもれら 生おは龍窓の内苗ヲイサ

は未生先私ヲイサイハ充テおヤリ心

おほとり 義穂穂ヲホトカおふとさお通同心

おそき人 者本ニアリヲツロシキ人也

をそあし 形遠 文選ヲスマニ同ウトクヲソロ

シキ心

おがち 大踏し水路

おあうさう 一様ナトヲ云し

おうくけの高お 東登ニあは急めニ自高至

低乃ノ凸凹んし



おふひらりりさ大算第一尺八寸右一寸八分  
天台大師の清作未摘ニ大七寸リキサクハ  
チト有

存のよの已ホ多あ葉ニ有

にふさとの大江敷

にまゝいゆ座と寝殿し史記ニハ延く

おさぬう河 奥中川又奥長川名ホナリ

おくまり息し

おろくす思碎思下し

おもこ侍名ヲモトヒト某ノヲモト、女ヲ云武

をいりのヲ口カ也

にがとあそひ大君持死大ナルゆアツヒヤ

おもむいお方祖母ヲハラト武ハたおノカト云

は祖母ヲオホハト云祖父ヲオホチト云

おさく 漸く 鞆了志 日本紀 優長 軌制 曰

治天下 匡房記

を龍さひ 生長 喧囂 日本紀

をいしく妻 ホレくシキニヲレテ年フル同ム

おかい君大君王姓之供王ヲ云玉うつらニ琴



はつらへケルフルヲホ志ト云リ  
おのりもろ 思立テトキト音通 生立ヲウ之

タツル 権ニ為雲女院ヲヤ  
をひれヲサナヒレ

ハラカニヲヒレタルト有  
おほるすまこ 衣姿人ハ皆ウヘノキ又ナ

ルニアサレタル大君スカタト云リ  
おほるく 男と女大ヤウニケタカキ人私雄略

日本紀 雄 同 抜 同  
おさめさうハ 長女清溝ハ雲云ヲサメハ下女

之カハヒスマニナリ家中ニ物ヲ納ルト女

也 不淨ヲ門ニテ洗捨シ丸ト云桶ニ不淨ノ

ヲ生好ノ絹二幅ヲヌイレテあノ端ヲ結合テ  
は丸ヲヒナニカケ持出也は女ヒスマニト云

をこころ 悔意ニ此ス又ノヲ口カナル歎シ  
雲ニツキセス恋ニキニ又ノヲエタリト歎ク

へタリ  
おくたうさ 寝高し女ニヲク高キモノト云ハ

おモヲホエストハ 寝スル心物モヲホエスト



有ハ眩病ノ高ハ奥高ハ奥高ヲキハメタル  
 高カ者ト云ク  
 在イヤシ人ヲイサリクトウナツキ録  
 納シ者本ニ兼テ將之儀ニ來車ヲ向給ヘハ  
 常陸ノ前司ノ姫君トナリヤキ、之人ナ  
 ンナリト云ク納ノ詞シ  
 在んころシ 涉答シ或説試示云ク又注云ハ  
 年満ト云ク  
 おん 侍前タキおナト皆誰漢ト有タナノ  
 下ニ大將ノ内約ノスケハラノ次帝ノ免給

式部記ニ上東門院ハ産ホニ内約カ之ノ涉中  
 勢ノメノト始者ノ涉少納言ノメノト有侍  
 才上ニ付テ可憐人ヲ以系ト不マ云也  
 お不之れかつか 涉之大室涉ノ多然近江免詞  
 私云小使筒事ヲホツホ尿管也  
 おり人 鬼メカシキ人也玉うつりのケサ  
 少人大夫監ヲ云者表紙ニハヲソロシキ人トアリ  
 おり人 兼實コトナリ老人ハ事ウルハシケ  
 八ナリ誠ヲ云心死不ノ祠同心  
 在りいもこ 乙女ニヲ<sup>凡</sup>之カ<sup>垣</sup>イモト<sup>下</sup>アル<sup>主</sup>シハ



甚ハ夕ヒサウニハへ夕ウ植下公御  
おろんへ 賢也 此 事 涉へ 同 友 七 涉へト云 大 掌

會事何モツル心  
をい入者本益ヲサテテヲニトノ 納進食日

本紀 神功皇后時 火前國 松浦縣ニ進食於  
玉崎里小河之側

おいれしに 老枯 總角ニ阿國 黎老カレタレ  
トイト夕ウトククウツキテ

をらさせ給 論語 鞭殿 小公 達以 迎ニ 系  
御附アサマニウヲクテサセ給ト 恨ニ

おほきく 亦ケタル也 饒云く  
おろれと 義言ニ夕教ニヲキナヒタルト有

おろけし 抄ニカイトト 大子ニヨハ  
ル聲

おも、らあゆみ 西拍步 振御 幸ニ内ノヲ  
ト、ヲ云

大君クニ 大板ニサナル心  
おやあに 源内 竹ノスケ 尾ニ成テ 後 推園ニ

テ 深ヘ中 詞  
を やにかさる 面ニ 小止 雨



浅らひたり 百ふ及土雨

浅らひたり 遠方彼方 日本紀

おほやけの公も日かたのふくまふの御時

おほいまうりたる大治おほも大治

おほふおほいまうりたる 大政大治也

おほい殿の大治殿

おとく 殿

浅らひたりたご 居立田子

おほんとうごの浅調度

おほらきあふすふが縁

おとく 殿

浅らひたりたご 我の家ミモアラ又心ハ

目と行幸事

目と守と童氣ワラハシキ心

目と余婦如ノ目と王氏也

目とあふ 無分無理也

目と花 瑞ニテ花ヲ作冠ノヒタケニサス事

目とんご浅り 王家ニ等倫法花経ニ云世雄也

目と備仏ノ法事 説く雖多以王孫爲正

目とかな 美ナニ正月廿二日子日ナルニ大太将水











ヨヒケル袖舞人袖返入事(初者三竹何ウ  
 夕ヒテオヨレル姿ナツカシキ聲ト有是モ同  
 心工五カヨヘル花  
 かしくさうの廉也也也也  
 かへこの栢殿栢梁殿東宮外御也(一  
 かしひらをもさせ門唐也于公事也  
 かりれはさうとも栢衣也(一  
 かしけのしこ搦上篁  
 かしを序巻カタクナシ又ハ行ハ知ナクカタ  
 大なり心

かしがし片也片廉をかしことしに勿さ  
 やらんと源同結  
 かしこの心が栢蘇莫明が將カタノ二一有事也  
 かしとび新カタマシキ心  
 かしれうひん十浄云ノ鳥也聲務衆多鳴法花  
 かした也  
 かしらこまり筑は急ニアリ也  
 かしれすしふ離也  
 かしらの女唐人の書する也  
 かしら國お名残おる人 屈源カ事



かんじりく髪也  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入  
かき湯のうき入

かんざらめ 上達甲公御也

かすい樂 酣醉樂河水樂夕ヨリ有也

かひけは事ふせ 高家也

かつらこの神 橋渡大神 水原ニ之工

かつらひけ 雑多ナトハヒケニ 警ヲカクル也

かひ草ノコトク生ヒコロルヲ云ヲモツラ

カヒケ也

かういり 廣陵教琴 秘曲 嵇康 歎有洛西

かき客授け田

かき寸 雄也

かきゆり 学生也

かきこの箱 香壺 寂秘 玩し 身高ニ寸五分 弘

九寸長同

かうえん 高中子也

かう木 大やケノ 勘事 勘當ノ 考辞ノ 考鈴

かき講吹

かくらう 定本ニ 額ト有 樂額 誤カ



かひるて かしらるて 又平均の儀也

かけく 懸く 懸く 懸く 懸く 懸く 懸く 懸く 懸く 懸く

かたえ 片枝 片枝 片枝 片枝 片枝 片枝 片枝 片枝 片枝

かたきさ 力分 力分 力分 力分 力分 力分 力分 力分 力分

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別

かたき 是各別











花ニヤハカサスノ花ノ色ハ  
かきれぬい 挿花又ハ花菊ヲカサスト有  
如之の象小毛細竹分れ 紙ト同色ナル花ニ仕  
ヘキト入てあり

明らやうくもどりて 河導原ノ歌シラカヲ  
イタルヤ但シラカナラ子ト年充ハ髪ノ色カハ  
ル也

かせの香も秋も成はる 秋さぬとめおはさやの  
秋心秋風来ラ吹ト雪ニタリ 次ノ詞ハニシキテウニ  
面白ト云リ 古事トハカリ心ハハニ念ニヤ

かい志ろ 恒代 梅基 舞ニ有或廿人 或は十人 舞  
臺ノ廻ニ立

かばりのあゆみ 鎌上トヒトシク悲秋ノ時着用  
ハ私云夏ノト製ニ用也 秋時ノニ北 秋有  
かく 新キ也 又カワクノ心 淡雷ノツモレハカテニ  
クタケワ

からくけ 唐更 松賭弓白ニ用

かけりこおけ 翫来 来タケナル心

かうをち 講説 注出ニカウセツセチトモ有

かけとるれえろ カケハナシ 後ニ



かじう 欽頭竹河ニ在ルカトウ男踏込ノ欽頭

也源竹後 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

表紙ニナシ

かすまゝ外ノ権大納言 還任貞外納言明名

源任経

かじう 欽頭竹河ノ欽頭

力自耀 姪孫合皆物語ノ名ニ唐守ヲハラケ

ニテカウモリトヨム

かやま 浮舟ニカヤスクト有

かやま

かやま

かやま 杜水多也



卷三十一

三十一

らそりく 糖やホタル洞

らそりく シツクモヨシ能也

よそりく 法ヨソヘタトヘ也

らそりく 必要しふ能く思ヒタラハヤ

らそりく おり 除る也来ヲモ云

らそりく 由下ル心

らそりく 除道 是ホテ公テのこころト云は除心也

同心 唯風ニアワラヘ付ル物ナラハ一存ハヨキヨト

心ハマシクハ心ハ

よせおもく 極重

よこりて 世は龍文明也

よこりて 源氏仲内ニシテサフライテヨウシ

よそりく 田十也 若ナニ朽 槌ヨリナト有源田十

加名

よこりて 日シメキナトモアラヌムヨツカヌ

よそりて 祝光玉 齊威王 梁惠王 舍惠王 云吾

國雖小 國有徑寸珠 照車十二 素者十枚 素何以

万素 國之寶也

よもりのありて 蓬丸 霞あさくらも木の丸の

物にけいんけいあもる 花世イヤシキ家ヲ遠カ

卷三十一止

三十一



者トイハハカク云ナセル也又彼詞ノ上ニモヤシ  
ラヌナリヲシツ、ホムレテトアレハニヤ東屋  
蓬生者カリニスル心

よすり 便ノヨスカノ定ルト云ハ人ノ女ナト儻  
便ノエタナキ心ヲヨスルは上子ニ事ヲ云又源ノ  
アタリニサリヌヘキ人ノナキ心

たい 對座也西對ハナレタルタイノ姫君ナト云恩  
たいごころ 大徳法師ノ友也  
たいくまご 暹也

たうりけい 舟也

たごのらん 彈基梓基梓也後漢書甄氏云孫  
の基の面人對座也 先彈也

たごひさご 悲願音也  
たごよりく 漂也

たごりく せんたう 紀夕、シキ也炭釜ノ心定  
たごイソクシキトアリ

たごごごへ かうらん のりこに 後鼓有庭  
琴有堂ノ心

たごごご 浮動盪也 特像也イテ我ヲ人ナト



三十一

三十一

カメツ大船ノユタノ冬ニ冬ニ物思比ソ流ニユラレ  
タル心ニ

たより 結際ハ雲たつありと出リ方糸無有ト  
云也本ヲ之タテヲ、マク物也神宮ナトニモア  
ルモノ也 継角ニムスヒアケタルタ、リト有糸操益  
ナリ

たつ 冬タツ野分タツ冬メク心澄テモふ若也  
たうのし、 昔神也

たよりへあ、 之のあ也タトヘナキナリ  
たよりして、 福也

たらぬたえ、 兄才賢也

たいそう 大系也

たよりより、 くの堪也

たうりのつと、 涉給て宿爵と左上天皇ノ以

給ニ除目ノ時宿位ヲ下也冠給トハ始ヲ爵

スルヲ云爵トハ勅授ノ始後五位下叙スルヲ云

たすこ 年強輩ニタル板ノ心禱タスキヤ人ノ

治女ヲ云治重云明石始素ノ袴等ノ亦ニアリ

たよの心の心、 名亦也又ハ流ト殿ト云又流

ト野トヲ云私云大覚寺ノ南ニ金流ナシ只泉殿

三十一

三十一



ヲ云トハ傳心流モ教モ大覺寺ノ景ニヨリ  
 ナストナリ  
 たきのよとこ  
 民代也清少納言枕草子ニタ  
 シカハラハ辞シテ明ニハカハラハ流也綱引  
 ト直せり山々  
 系氏  
 だも  
 同心奉經ニ語迂タリ

たおこの  
 玉教ニ  
 たきみち  
 たびけ  
 たんわん  
 たゆき  
 たく  
 たおも







此のまゝ 大學寮門也 大は三は又  
此のうら 陵王樂  
此のし 結 結と書来ニレニタル心ナラ子ハト有注  
ニ意フ字ヲ付タル如何

楚

そのいふ 副師川入右師 女十六を殺ヤコト  
トヒフニニ成結  
そのく 鮪ハ多ムハ文選 鮪 鮪ハくニ  
その弱 神系ノ名を弱ヤ我ニ系カウ  
その心 魯ハ一徳清六府 近清府 枝皮

そこは 是下也 比 何史記ニ多クハ文選サ  
ニ李陵 蘇武 蘇武 蘇武 蘇武 蘇武 蘇武 蘇武  
玄等 列ヲ恭何也 下ハ字元ト下 禮ハ 礼 禮ニ字  
室 室トト云リ  
そのろ 央スルトナル 心 清 素ニタリ  
口カニト有長高キ心  
その 將監ニ殿上人ヲウ左近ノ藏人ノウウニ  
私將監ニ不可限 官コトニカミセウサウ友ニ有  
近清府ニテハ將監セウタルヘニ大 約ハカニ中  
ハスケ右中將ハ右ノスケ母將ハスナハスケ







メト有皇孫ト云義也  
 ときこむ殿 承香殿也 蘭ニ内侍督君ノ以爲一  
 ナル  
 せんーヤ 尊志ノ大御若トトニ 致仕大御ツ  
 カウマツル云々  
 そこハかごく 亡其斗又亡之墓  
 そこひ 底モシラヌ也 ツコ井ナキ 澗ヤハサハク  
 そら波の之みら 病者ノ死相但限ニ  
 そひひ 志こ心ち 人ノ安キイサヤカナルヲ云是  
 も 抱ハフカシクカノスヘラル、心

そひひ やかよー 一ツヤカニヒ ヤカニ  
 そらあ 坐之端ス、口サソ口寒クヌロハニ  
 そらうあ 花の高ニ大井 後祠ニ只大ヤケコ  
 トニソニウナル 物作ノアリト云々 如左心ニ  
 ニカタニナル 物作ト有  
 つかれあ 夕ハフレサレタル也 ホユリタル也  
 初音ニトシノウチノ 祝事メツホレアヘルト云々  
 そら 族 孫玉 誓大吏 監ノウヒロク 族ニ竹河ニ  
 是ハ源氏ノ 之ノウ 族ノ者本ニ 中 秀 懐 妊 事ヲ云  
 ニイミニク 命ニシカキノウナレハ 是ハ孫ニ 西義也



亦多し  
そ志て  
さいひ  
別所  
名  
テ  
殺  
殺  
そ  
そ  
そ

方山里ノ去  
造物  
おノ人  
強  
ク  
心  
漂  
流  
ワ  
ナ  
シ  
テ  
コ  
ソ  
ノ  
ハ  
テ  
ワ  
ナ  
シ  
テ  
ク  
ム  
子  
の  
子  
強  
作  
シ  
テ  
同  
文  
ノ  
不  
審  
ナル  
お  
ニ  
爪  
ニ  
テ  
シ  
ル  
シ  
テ  
ス  
ル  
一

卷之八上

四十一



はくら折 九折 盤折 文集ニ山下中山上初巻不  
可攀誰知中有路盤折 通巖巖若は急水山  
はまよのやう 近江若祠 細くモト 又折ノ  
ハシト云心

はくら折 フツキリ也若ナノトニ 柏木小竹從ニ

諸語詞

はくら折 折ノマカケナトヲ  
マユ工モ同解シ

はくら折 アツヘタマシク 柏木

はくら折 小兒ノキアマス事 津ノ字 横笛乳上

はくら折 子カラス 初巻ニサカラストニカコトニ

はくら折 椿餅也 鞠庭ニ献椿餅事見日記

はくら折 餅ヲ粉ニメテ子ノ粉ヲカテアマツラニテカ  
名ノテ椿葉ニ枚ヲ合フテ上ヲウスアウヲ細切

はくら折 斗ニ公世ニ位造テ糸セキハウニコソ極ハア人

ヲ入テ可味重カラミヲモ加ヨカルヘシ又枝ニ斤



葉少付カタハヲオホヘ止アリ  
 此下より突詞ニ不立シテ  
 此七やうみもあしきハヲモクシキム  
 此下やうみもあしきハヲモクシキム  
 院玄方雲兵尺口判結詞  
 此下紙本奉書物  
 此下いらい太和長谷諸人  
 此下マタニ夕テツラン  
 此下なるまにマエトナキケ  
 此下ト云ニマカ略ス  
 市如笠キテ  
 深舟ニ約日比ノ夕月  
 ムキスサキニト云  
 面白嗟礼タルニ七日ノ夕月  
 何仏記ニモ七日ノ夕月  
 一日ノ月ト云ニ此期日八月ノ始ノ月ナルヘシ  
 此下ノ意 信ニモカント思  
 弦ノ具ニテ也ニト云  
 此下つえの支願文集  
 の枝波ワラウエニツク

市如笠キテ  
 深舟ニ約日比ノ夕月  
 ムキスサキニト云  
 面白嗟礼タルニ七日ノ夕月  
 何仏記ニモ七日ノ夕月  
 一日ノ月ト云ニ此期日八月ノ始ノ月ナルヘシ  
 此下ノ意 信ニモカント思  
 弦ノ具ニテ也ニト云  
 此下つえの支願文集  
 の枝波ワラウエニツク



はるかに 椽窓時キル夜に 但まハ色黒死小蛇  
刺ニテ少拘ト云女シラミタルモカキ又ハキナリ  
旁大狗ニ對面セシト有

花巻やさ 実信心 一  
はまひさ 琴絃川事 一  
はらゑさ 費ワイヤス私ソエノスル

はらゑさ 戦ワキニモツ、ニリウタフト有

祢

祢ら巻 倭人表裏ア也子キ人ニクキ人ト  
云云

ねひして ねひされ同く倭ノ心死

ねひさる 生長老人子ヒマサレ以 幸子ヒタル

年頼

ねとます 勅ハケマス心 妬ウ子タマスキエト有

ねにめうらふ 根籠也 倭野打語 根籠也 子願自

袂袖フシ梅ハカラ又白ニテ子ユメウツロフ事

ヤコトナル後撰ニ垣コシニ散タル花ヲ見ヨリモ

子ユメニ風ノ吹モユサナシ根ナカラ風吹コセト

云心

ねこと 祢宜言ねうひる 又祢ニ祈り子キ







なやうの 追新ヲニヤライロ  
 ありのひ 鬼捨頓氏業家業  
 なやうの 京控門也李王主紀古人祿中門多々  
 京控門ハ東桂川ハ西仍京控門ヲ祿中門  
 直人 直人 直人 直人 直人 直人 直人 直人 直人 直人  
 上我ハカホニテト云クナクシキ人ト云ハ正直  
 實有人云云  
 神 神 神 神 神 神 神 神 神 神  
 天一神也一統長神子智ニイドセハクムツカレク  
 忌ヘカリケレハ字治下院ト云シ不思出テ二之日

ヤトニ云ク二三日ト有ハ一敷回ニハアラサル  
 なやうの 遠近 婀娜 柔ホヤハラカニ 稔ナル心アツ  
 フスマナユヤカニメ子タレセ志ト子ハハタヘサ  
 ムシモ  
 梅枝ニユマカニナユラナツカシウウツクシ  
 ウ滑ナル是モナユヤカト同詞  
 内妻弘仁年始有唐太宗旧風  
 月二三日間ニ子日行ク式清涼殿記ホサ一二之  
 日ニ子日有使用ク悉ク献侍飲悉ク奉祝也  
 瘠タリシヲ後白河院以時信西法昨中初也



















いふことし用いけし意圖にヨニ牽牛子クニハ助膳  
のククニ梳櫛カニサツラ

らうけ俄まおらうて 母ノ尾充奉し又

らりの 聖子 衡車 上ニフキヲ高メ四方感ホ

角ニ多紙ヲ立テ菓子ナトモ之ノ横笛ニハお

らうかりい 礼 狼籍ノイストマラ

いふことし用いけし意圖にヨニ牽牛子クニハ助膳

らりの 聖子 衡車 上ニフキヲ高メ四方感ホ

角ニ多紙ヲ立テ菓子ナトモ之ノ横笛ニハお

らうかりい 礼 狼籍ノイストマラ

いふことし用いけし意圖にヨニ牽牛子クニハ助膳

らりの 聖子 衡車 上ニフキヲ高メ四方感ホ

角ニ多紙ヲ立テ菓子ナトモ之ノ横笛ニハお

らうかりい 礼 狼籍ノイストマラ

いふことし用いけし意圖にヨニ牽牛子クニハ助膳

らりの 聖子 衡車 上ニフキヲ高メ四方感ホ

角ニ多紙ヲ立テ菓子ナトモ之ノ横笛ニハお

らうかりい 礼 狼籍ノイストマラ

いふことし用いけし意圖にヨニ牽牛子クニハ助膳

らりの 聖子 衡車 上ニフキヲ高メ四方感ホ

角ニ多紙ヲ立テ菓子ナトモ之ノ横笛ニハお



いづいづり 尚服

むくひ火法々 向火 檜杵作河 在日本武

故事 抄 未時 我身ノ草ヤキテフセク

事ヲ云一説カタハライタニハ向火ナ

カラモノイハヌヲ云人ニ物行ハセ

テニユヤカニ物行ハヌハ未時ニテ

ク心

ひくい せ礼

むさゝの人を友人

ひくいのことも 史籍

むらんち子へたき同位也

むさゝの法 懺法帖

むすひらめ給へ 人王ノ事

むらさきのよめ方 黒色にひき

むすひらめ給へ 人王ノ事

むもれつと云 埋痛しウツモレタラレト云心ハレ

ハレシカラヌ心也

むらり物語のさく 伊勢物語ニ鬼一はニクイテ

ムケリト云事

むすひらめ給へ 愁心ム子ノ中ニヒシト







諾に別心及び不交詞ニヤハズ  
 うらみあかハウタテアルシウタハトハ添ハ心  
 うらみせうくハウルハシカリト也  
 うらみのうらみ付 物語を煩作世巻法合ニ入  
 珠衣ホシカ多ク今ヲ捨テカラモリ何モ  
 物語心ハハズノ上野モヤオハナリ  
 うらみハ無現心ウツシ心マエトハ心シウツシ  
 心けウツハハ狂乱ハ心シヨリ  
 うらみハ現人ハ見スラモイモセハミエテモ物  
 ヲウツシ人ニテ家ヒトリヌル

牛車あつたてて 牛車宣言 私云申すノウチハ  
 牛ヲカケカテ出入スル事  
 うらみハ或本上ノみ節ト有恒年ハ公卿  
 二人殿上受候二人代始ニハ受候みおし教上  
 人マイエスレハ上ノみ節ト云ナリ  
 うらみハおさしてクチヲツホメ肩ヲスヘタルケ  
 シキハオノサムキ風情  
 うらみハ持殿續おし玉うつらまうこの  
 うらみハ  
 うらみハおさしてキリタルハ幸ニおキラ



うらまきせし清幸ニハサヤカニウケノカニヤハミ  
 拾遺歌持打キラシ高ハ降ワシカスカニ家  
 ノノ人ニ愛人ナクハカニヤハミ  
 うらまきせしの箱 中箱ニサシウシノ箱ウチミタシ  
 一人箱カウユノ箱後ヨロハカニヤハミ  
 うらまきせし雅楽寮 雅楽寮ノ事  
 うらまきせし世路ニ高裏紫袴ノ事  
 うらまきのこり夕暮浦浦カコ心あふん云浦  
 浦ノ箱ノ事 夏ノ箱ノ浦浦ノ子ハ箱ノ事  
 うらまきの事 鶴谷ノ東を鶴谷ノ馬ノ事

うらまきせし 假寝 假寝ノ事  
 うらまきの院 平等院ノ事  
 うらまきせし 男ハトニキル物ト女ハ美人ノキ  
 物トハ  
 うらまきせし 横笛ニ若者ツタニナトシ箱ハウチ  
 マキニナラシ云クサナ子ノ事 有時ヲシ箱ト云  
 物ニ白米ヲ入タルヲマキナラスナリ又ハ道ナト  
 ニテ打マクナリ  
 うらまきせし ウチツケト同ムヤカテト云心ウチタ  
 ハナリ



うめさね 詠也

うめさねの 字多法師 慈覚禪門の松琴

也 延久四年 宇治原命し 南殿に於て 時正字

多法師 松琴の 詞は 夕十 といはれ 詞有 ぬじ といは

作し 内裏焼上 時夫 却年 宇治 多法師 同 松琴

「尸へ 多法師 二字 濁テ 讀 秘説也 寛永 十 作 成

年人ノ 名ヲ 名付シ

うらさねの 時多 百 余 友 十 ヶ 少 ナリ コカウ

子 夕 十 賢ノ 五月 雨ノ 比 躬 恒

うめさね 松 馬 鬣 松 馬ノ 夕 十 カニノ 如ク ナル 松

墓 亦ノ 松ト 云シ

うめさね 情 吟 イツレノ 底ノ ウツセニ シリケシ 松云

幸 実 見 だか 父 海ニ ヌソ 有ヘケレ 花 水ノ 底ナ

レハ カヨハシテ 云シ

うめ 松ノ 川石 木日 送 海 巻や 時を 世 あり け

あやしく 浪ノ あやめし けり けり

うへ けり 子 對 空 ナラテ 殿 舎ヲ 一ニ メタルヲ 云

中 宮マウノ ホラセ 給 朽ハ 清 涼殿ヲ 二 間上 房ニ

シツラウシ

うつら 卯 槌 或本 卯 杖 江 江 中 云 春 宮 被 献 卯 杖 大



進着腋陣付苑人進く大舍人進却杖六十束  
次系亦進却極沖机組并縫履打浦料系  
十兩二分三川結組料七兩二分舟波已上申  
請納殿苑人取く結付晝以座以帳角柱副立  
細木为柱樵末去す

うむ志く孝子経温死漂浪ニヤス亦モ思ウニ  
エテ別給ニシトヲホス云々堂ニ内ノ乙戸夕教上  
事ヲ云ホスニハカキ拘ウニヲシテ云々屈スル心  
がまやのびさにくくすすか 驛長は侍天祥  
筑後宮へ給時次卷有口侍ヲ給ハス其侍云

驛長之驚時爰改一景一落是春秋只今節者  
の御ヲ奉ニ源返御ヲクナワカラモキカセサル事ヲ  
の恨テ云々

うしひかへ人 念定人未必人又少シト云心死  
うしひかへ 新捨  
うしひかへ 教護  
うしひかへ 愁人  
うしひかへ 雲林院  
うしひかへ 赤階  
うしひかへ 人  
うららこの人めして 物哀未を仕ル人







二宮以筆ヲノ語也以菊臨トス  
 のち此おふい殿 野語後ト云 況有共澄本毎ニ  
 野路ト有瀬多人東ノ野路ノ事行成自筆ハ  
 三毛野路ト有其野ノ大石ヲ野路ノ大石ト云リ  
 才学優長十人ノ見ニテスラヘタルニヤ又ハ忠仁  
 公昭宣公世前後ノ号有ケレハ唯タル世ニ  
 私和橋卷ニ今物之語ハノ才ホキヲトノ語  
 の娘栳栳ハナレカタク之語之悉ク之語ヲお  
 の人ニテスラヘテ云ク男子二人女子二人玉鬘服ニ  
 の有鬘思ウセ語テ後ハ

のり弓矢久クあり 賭射還餐白宮卷ニク  
 秀六条院ニテニ語ト云ノリ弓ノ隔ニ餐ヲシ  
 テ射子達并上達ノ雲客ヲ振語スル之餐ヲ下  
 ルニト云  
 のり志方一會ニカル心折櫛ノ義  
 のりせ道もせふや朱ぬら何接也セハキ心  
 のどめ 松長不心  
 右 楊ノセカ  
 久  
 今つるし 内藏寮穀倉院 桐ッホ



今もさ 冠者ウツシサノ也 桐ツホ乙女

今も人のの 尊藏人ホノ役馬ハ友ノツカサ、役

今もソシハ 種友を玉カツラノ事ヲ 徳ニ源氏スキ

（拙共ノ心 愈スクサハイニセシ）

今も由 隈曲阿然ハ 歎ノ名ナレ世思カケシ

今もれる 井のう 如ノ袴ノ腰也

今もろろ 小まきろ 帯ホアハラナル之私極心ニ

今も突ナルハ 夕ハマシマカニツマル心ヲ 對ニメアハラニ

今もトケケ 十キハクツロク心

今もれる 井のさぬ 総角ニ有カキモモノツマナト

氷トケケ又カトミユト有 約ス衣ハ氷ノヤウニユ凡

今もろろ 車 販者事也

今もろろ 顔人ノヲトロヘタルニ 退屈シ

今もろろ 佛 灌仏者ノ裏ハ

今もろろ 薫衣者 此ニシテ 同前 朱雀院

今もろろ ウツサセ 結テ公太 約 朱雀院 辻道ノ長シ

今もろろ のひりろ 弟 帝 あり古ノイモイノ意ニア

今もろろ ツマリシ 茶ノムシロモト 小やあ ぬら 尊意 大伴

今もろろ 若 武 成 退 屈 心 爲 事 明 石 上 ノ



七ワヲ云イカテカククシケシ云クニハクニシケ  
 ンニ薰習心ニハ具渴テ可讀第トヒワトヲク  
 ンニケシ也ニサニヨクスル心トマ依ハ大方渴テ可  
 讀親少クシテト云モ具也  
 若痛也痛補也若ナノ上ニ柏木女  
 二宮ヲ之身付タヨリクシイタウモノ思ハシク  
 ンテ云ル  
 原途ニトノモリノクソ同卷イツ  
 ラクツタチ古今作志ニモ互クソ渴テ可讀覺  
 之卷名ハ右原を世ノ人クスト云リソトスト同音

青表紙但定本  
 清孝スクヨクナクヨハキ心ク子  
 火燭法幸ニ整ノ行幸ノ也  
 九重宮中ハ推トニクナウナトニテ  
 羅漢羅尊志佛出家後六  
 年授テ誕生ス小疑ニ抱見投火入ク全テ不焼  
 久為志也  
 卷教ニ云付終ヘリ深如母ノ



へかへし... 清門御嶽... 明石...  
 へかへし... 源平... 徳島...  
 へかへし... 萱州... 白...  
 へかへし... 推下... 僧... 藤...  
 へかへし... 茶... 山... 有... 證...  
 へかへし... 梳... 押... 垂... 髪...  
 へかへし... 卷... 源... 氏... 力...  
 へかへし... 返... 事... 夫... 太... 輔... 命... 婦...  
 へかへし... 有... 篇... 火... 人... 月... 山... 思...

へかへし... へかへし... へかへし...  
 へかへし... へかへし... へかへし...  
 へかへし... へかへし... へかへし...

へかへし... 黒... モ... サ... ト... 云... 本... ニ... 作...  
 へかへし... 思... ト... ニ... ホ... シ... ト...  
 へかへし... 細... 碎... 文... 集... 三... 名... 竹... 令... 涉... 何...  
 へかへし... 種... く... 沈... 丁... 子... 秀... 也...  
 へかへし... 癖...

へかへし... 荒... 人... 男... 女... 世... 雲... 上... 人... 同...  
 へかへし... 糸... 玉... 私... 切... 刀... 用... 或... 語... 云... 作...  
 へかへし... 以... 石... 科... 花... 費... 以... 糸... 縷... 不... 續... 命... 縷... 列... 差...

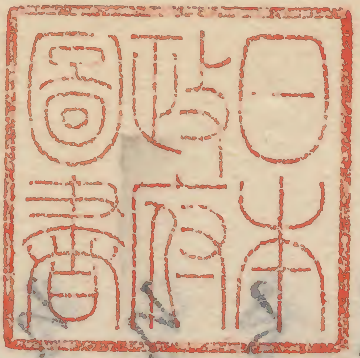




三十一

六十四

又命之曰... 孔子曰... 子曰...



子曰... 子曰... 子曰...

群書類従巻第三百十八上



